

2024 年度第 1 回 職業実践専門課程

学校関係者評価委員会・教育課程編成委員会

日 時：2025 年 1 月 17 日（水） 10：30～12：00

場 所：大阪文化服装学院 南館図書室

出席委員：萩原 直樹、小林 義歩、片岡 敏哲、榎本 麻子

植田 茂和（ZOOM）、河野 あゆみ（ZOOM）、岩光 栄太郎（ZOOM）、

学校関係者：豊田 晃敏、加藤 圭太、岩崎 一哉、森 慈郎、杵山 晶、白倉 亮一、

眞砂 香、下岸 貴美子、関 琢也

欠席委員：糸井 弘一、志貴 昌弘

1. 開会のあいさつ
2. 学校関係者評価委員会
3. 教育課程編成委員会
4. 質疑応答
5. 閉会

*資料

- 学校関係者評価委員会・教育課程編成委員会 2024 年度事業報告書

【議事録】

校長より開会の挨拶

校長より 2024 年度事業報告書の説明

議題

1. 教育活動
2. 学修成果
3. 学生支援
4. 教育環境
5. 学生の募集と受け入れ

1.教育活動および2.学修成果

- 速報 織研新聞主催「第2回ファッションスクールアワード」で大賞に選出
評価ポイント
 - ・ 主要コンテストでグランプリ 10名 入賞者 31名 (昨年グランプリ 7名 入賞者 17名)
 - ・ 国際交流強化
 - ・ 企業・団体との産学連携事業 29件 実施(昨年 23件)
 - ・ 在校生や卒業生のインキュベーション活動
 - ・ 国内外の現役業界関係者やデザイナー、スタイリストなどによる特別講義を 22回 実施
- 2025年大阪・関西万博に出展

関西万博において、「大阪ヘルスケアパビリオン」ブースが設置され、26事業者が1週間単位で展示を行う。そのうちの1週間、大阪商工会議所とKanFAが、会員企業等17社による共同展示企画を実施。当校もその1社として参画。

- 元「装苑」編集長 児島幹規氏が「特別教員」に就任

7月1日、元装苑編集長の児島幹規氏が大阪文化服装学院の「特別教員」および「戦略スーパーバイザー」として就任。

デザイン講義および学院に関係する事業やプロジェクト運営に関する助言や業務支援などを行う。

企業コラボ

- 造幣局「桜の通り抜け」でファッションショーを開催

参加学生：スーパーデザイナー学科/ファッション・クリエイター学科

昨年につき2回目の開催。本年度はプロモデルを起用した本格的なショーを実施。

- レディースアパレルメーカー株式会社アリエスとの企業コラボ

参加学生：ファッション・クリエイター学科アパレルデザイナーコース2年

24年秋冬向けにワンピースを企画。その後、展示会に出展し、商品化を目指す。

今回の企画では、学生が企画をするだけでなく、展示会にも参加することで、大変多くのことを学ぶことができ、非常に貴重な経験となった。

- 学生ブランドを有力セレクトショップ3店舗で販売

参加学生：スーパーデザイナー学科3・4年生

学生ブランドが、セレクトショップ「ガラージュ D.エディット (阪急メンズ館)」

「11747391 (心齋橋)」 「loop (芦屋)」のバイヤーの目に留まり、6/1からの1ヵ月〜2ヵ月にかけて、各店舗でオリジナル商品を販売した。

- アトリエドール主催コンテストでグランプリ・準グランプリを受賞

参加学生：ファッション・クリエイター学科アパレルデザイナーコース3年

株式会社アトリエドール主催の「テキスタイル/二次加工コンテスト」が開催。

グランプリと準グランプリをW受賞。

受賞した作品の柄は商品化され、9月の展示会で発表後、東京の展示会へも出展。

- 学生ショップ『CEANGAIL』が HEP FIVE にオープン

参加学生：ブランドマネジメント学科ショップ開発コース3年

長期運営ショップは2000年度にこの HEP5 に第1号店がオープンして、今年で24回目。オリジナルショップは約3ヶ月間の長期運営。売上状況などについて日々検証をし、MD等の見直しを行うなど、実践を通し、店舗運営を学ぶ。

- アーバンリサーチスタイルアンバサダーのコラボ取り組み

参加学生：ファッション・ビジネス学科2年

WEBでのスタイリング提案と販売を通して発信手法と撮影技術、ささげ作業（撮影、採寸、原稿）とSNSマーケティングを実践で学ぶことを目標にコラボを実施。

アーバンリサーチのスタッフとして店頭の商品を着用し、スタッフスタイリングとしてECサイトに投稿。

PV数、獲得売り上げの推移を分析・検証しながら半年間投稿を繰り返すことでSNSマーケティングを実践的に学ぶ取り組み。

- アダプティブファッションショーに参加

参加学生：ファッション・クリエイター学科パタンナーコース2年

重度の障害者をモデルに、着たい服のヒアリングを行いリメイク作品を製作。ファッションショーとして披露するイベント。

TPOにあったオシャレなスタイリングとともに着脱のしやすさに重点をおいた服のリメイクやデザインを行う企画でパタンナーコースの学生を対象とした企業コラボとして今後も継続していきたい。

- Panasonic とコラボ企画を実施

参加学生：スタイリスト学科ビューティ&スタイルコース2年

Panasonic の商品であるナノケアドライヤー、ヘアアイロンを使用し、スタイリスト学科のビューティ&スタイルコースの学生が作った派手なヘアメイクを作成。

その後商品を使って実際にケアしながら元のヘアよりさらに美しく戻し、整えるヘアアレンジ動画を作成し、また店頭訴求し実際に実演する。

この企画は当校教員がヘアメイクを通じて元のヘアに戻すことの難しさを問題提起して先方に企画提案を行い実現した。

- なんばソトフェスに参加

参加学生：スタイリスト学科1年

なんばパークスにてアウトドアフェスの「ソトフェス」が開催。

イベントの一つとしてアウトドアアパレルのアーバンリサーチドアーズ、アルペングループなどのウェアの販促、ショップPRの為、スタイリングを作成し、ファッションショー形式でスタイリングを披露。

- ライフコーポレーションコラボ企画

参加学生：スタイリスト学科プロフェッショナルコース2年

スーパーライフのオリジナルブランドである LIFE BASIC の商品 PR の為のスタイリングを作成。それぞれのスタイリングをライフ公式インスタグラムにて投稿しいいね!数を競う。また LIFE セントラルスクエア西宮原店にてマネキンに着装。店頭での人気投票も実施。

- 株式会社チュチュアンナとのコラボ企画

参加学生：スーパーデザイナー学科/ファッション・クリエイター学科

16点の作品が商品化され、tutuanna HEP FIVE 店をはじめとする直営店舗で販売中。

- 「日本ジャガード刺繍工業組合 (JEA)」とコラボ

参加学生：スーパーデザイナー学科2年~4年/ファッション・クリエイター学科クリエイティブデザイナーコース2年・3年

昨年に引き続き今年度も『いい刺しゅうの日コンテスト』が開催。応募したデザインを組合の刺繍企業で制作。あべのハルカス近鉄本店にて開催されたイベント「ハルカス学園祭」にて販売した。

日本ジャガード刺繍工業組合からは刺繍用のソフトウェアの提供および刺繍機の購入に対しての支援など当校における学習環境の向上をサポートしていただく。

- 「三澤株式会社」とTシャツコラボ

参加学生：スーパーデザイナー学科/ファッション・クリエイター学科

三澤株式会社が新たに立ち上げたTシャツブランド「UNIT CHEST」プロジェクトに参加。2024年夏期シーズンでは、応募作品77作品の中から11点の商品化が決定。

ZOZOTOWN 及び三澤の自社サイトにて販売。この企画は2024年秋物でも継続。

- 「三澤株式会社」とスタイリングコラボ

参加学生：スタイリスト学科ビューディ&スタイルコース2年

SD、C、BM科の学生がデザインしたTシャツをスタイリスト学科2年の学生がスタイリングを考案。新ブランド UNITCHEST の SNS 販促として、メンズ、レディースのスタイリング提案、動画撮影、スナップ撮影を実施。

地域連携

- 新大阪・三国アートフェス

地域活性を目的に新大阪・三国の店舗や施設、約30箇所でアート展示やイベントが実施され、開催場所の1つとして大阪文化服装学院も参画。

中庭やカフェに地域アーティストによるオブジェや絵画などの作品を展示。

本校からはSD1年生、SD2年生、FC3年生の秋フェス出展作品を展示。

こうしたイベントを通じて地域との連携を深め、貢献しながら共存していく関係を構築していきたい。

コンテスト

- 「第98回装苑賞」で装苑賞（グランプリ）を受賞

ファッション・クリエイター学科クリエイティブデザイナーコース3年岩野蓮祐さんが装苑賞（グランプリ）を獲得。

このコンテストでは最終選考に通過した16名中4名が大阪文化服装学院から選出され、全国最多の入選者を輩出する結果となった。

- 「中国大連杯」に参加

中国・大連にて、アジアのアマチュアデザイナーの発掘を目的としたコンテストが開催。

スーパーデザイナー学科4年長谷雪花さんが日本人トップとなる「優秀賞」を受賞した。

- 「Asia Fashion Collection 12th」でグランプリ W 受賞

昨年に引き続きグランプリ3組の内2組がOIFの学生。

グランプリ受賞者には、東京での展示会発表とNew York Fashion Weekでのランウェイデビューの機会が提供される。

- 「YKK ファスニングアワード」でグランプリ

「装苑賞」、「Asia Fashion Collection」に続き、国内主要コンテスト3冠となるグランプリ受賞。

装苑賞を取った岩野蓮祐さんがYKKでもグランプリを受賞し3位も当校学生が受賞。

- 「パルファウンデーションカップ」でグランプリを獲得

パル井上財団主催の販売ロールプレイングコンテスト「PAL FOUNDATION CUP 2024」

にて、ファッション・ビジネス学科ショップマスターコース2年浅野瑞穂さんがグランプリ（プラチナ賞）を獲得。

- 「FB アワード Y2024」でグランプリを獲得

ファッションビジネス学会が主催する学生対象のファッションビジネス企画コンテスト

「FB アワード Y2024」にてファッション・ビジネス学科2年が提案した「体の不自由な人のためのファッションコンサルティング・サービス」グランプリを獲得。

パーソナルスタイリストの力で身体障がいを持つ方の特性にあわせたパーソナルな買物体験を提供するサービスを提案。

グローバル戦略

- Polimoda 研修旅行

参加学生：ファッション・クリエイター学科2年17名・3年3名計20名

2024年6月11日~6月21日 11日間

- Polimoda 短期留学

参加学生:スーパーデザイナー学科3年18名

2024年9月9日~9月30日 18日間

- 韓国スタイリング研修

参加学生:スタイリスト学科2年プロフェッショナルコース18名/ビューティ&スタイルコ

ース 10 名

本年度より正式にスタートした衣装のセレクトからヘアメイク、フィッティングを行い、ソウルのトレンドスポットでフォトシューティングを行う研修。

2 コースに分けてそれぞれ違う内容で実施。

Seoul Fashion Hub というデザイナー育成のための大規模な施設があり、研修に使用。韓国では国を挙げてデザイナーの育成などファッションビジネスに力を入れている。

- 韓国バイイング研修

参加学生：ファッション・ビジネス学科 2 年バイヤーコース 11 名/ショップマスターコース 5 名/プレス&インフルエンサーコース 3 名 計 19 名

卒展の商品仕入れを目的に東大門などのマーケットで実際の仕入れを体験。

商品の下代の確認、上代や数量の設定、商品構成、利益目標などを考えながら卸の市場での価格交渉などの MD 業務を実地で学んだ。

- Hong Kong の Youth College が来校

Youth College は Hong Kong の職業訓練学校、日本で言う高等専修学校。

OIF コース紹介・校内見学の後、OIF 学生とのセッションを実施。

Youth College 学生が自身の制作物や資料を元にプレゼン。OIF 学生は自身のポートフォリオ、作品を持参し、プレゼンを実施した。

- イギリスロンドン GFWi に参加

世界の有力ファッションスクールから優秀学生が一堂に集まる国際コレクション。

今年はロンドンにて開催。スーパーデザイナー学科 4 年山村歩さんが参加した。

- Fashion Graduate Italia に参加

ミラノ市が主催しているイタリアのファッションスクール各校の優秀学生のコレクションを合同ショーの形で発表しているイベント。ミラノと姉妹都市である大阪市からの依頼で、スーパーデザイナー学科 4 年豊田愛さんが参加。他校では上田安子、大阪モード学園が参加。

- Polimoda 交換留学

従来は交換留学生 1 名を 4 か月間受け入れ、卒展にて発表する形式をとっていたが今年度から仕組みを大幅に変更。今年度より Polimoda 学生 4 名および教員 1 名がグループで来日。滞在期間も 4 か月から約 1 週間に短縮して日本の産地ツアーを実施した。

日本の技術の素晴らしさをしっかり提供でき、長期にわたり Polimoda との関係をたもつ繋ぎになるイベントになることを目指していきたい。

DX 教育

- インフルエンサー特別ゼミ

インフルエンサー特別ゼミも 5 年目となりフォロワーも 8000 人を超えた。

この特別ゼミでは TikTok を活用した学校の PR について学ぶ。

- AI ビジネス活用

- ・ 河合拓氏による「ファッションのDX化」等の特別講義を継続。
- ・ ファッションAIを独自開発した「ニューロープ」社との提携授業を継続。AIを活用しトレンドやデータ分析を行う授業を通して仮説をたてそれを検証するスキルを習得する。

- 3Dモデリストコース

3Dモデリスト教育においては、従来の枠に留まらずグラフィックなどのビジュアル表現も実践。

「3Dモデリスト検定3級」受験者全員合格(8名)を果たした。

- ファッションビジネス学会全国大会(大阪文化服装学院主催)

DX教育の一環として教員のスキルアップを図るためファッションビジネス学会においてDX関連の研究発表を2組の教員が実施。

テーマは「メタバース空間におけるファッションショー」および「デジタルによる視覚的なドローイング教育」

3.学生支援

就職状況

ファッション業界の求人は、コロナ前のレベルと同等またはそれ以上に回復。内定者数・内定率も大きく改善する。

店舗を中心に人手不足の状況は続いているが、業界の今後の見通しは不透明な状況であり、今後も引き続き就職説明会やインターンシップ機会の増加など、学校としてサポート機能を強化していく。

4.教育環境

引き続き2024年度も職員室、E22教室など学内のレノベーションを実施。

職員室のレノベーションは教職員の働きやすさと同時にセキュリティの強化も大きな目的。

5.学生の募集と受け入れ

今年度の学生募集に関してはAOエントリーが2023年度の202名から252名まで大幅に増加。

12月末時点の出願者数もすでに2023年度の最終自実績の217名を超えており最終予測は272名~275名。

増加の要因としては

- ・教育コンテンツの充実、就職やコンテストの実績など、本質的な価値をきっちりと訴求することを実施。
- ・高校生の大学進学志向が高まる中、「ライト層」(進路未定、未検討者)へのリーチを重視し、分野への興味関心を喚起するイベント、連携授業を数多く実施した。

- ・国内の少子化状況に対応すべく、留学生獲得に向け、海外に向けた PR も積極的に実施。オープンキャンパスやワークショップを積極的に開催した。
- ・高校生に向けた連携授業を 6 校に対して 13 回実施。高校生に向けてファッションの魅力を体験してもらう機会を企画した。
- ・当校が得意とする「デザイン発想」を中心に、SNS 等でも人気の「パーソナルスタイリング」やファッションショーで実践できる「ウォーキングレッスン」など企画内容を様々工夫し、高校生の興味関心を高める取り組みを行った。

質疑応答

萩原：学生募集においては、DX 教育や企業コラボなど実践的な教育に注力されており、ファッションに対する学習意欲の高い学生にはアピールできていると思うが、進路未定者や未検討者などいわゆる「ライト層」にはどのように対応しているのか。

また数多くの企業コラボは学校から営業をかけて実施しているのか、それとも実績に応じて企業から話が来るのか。

豊田：「ライト層」に対する「本気層」は全体として増加傾向ではない状況の中で「ライト層」を対象とした戦略は必要と考えている。

「ライト層」は修業年数の短い 2 年制生の学科（ファッション・ビジネス学科、スタイリスト学科）に多く、その中でどのように獲得していくかという戦略を立てて実施している。ただし「本気層」のレベルが高く、それに伴って生じる全体のすそ野を広げることによって「ライト層」の獲得もできると考えている。

そのために「尖らすところは尖らせて」一方で経営観点では「ライト層」に対する広報戦略やコースの新設などを常に考えている。

企業コラボ、産学連携に関しては営業をかけて取りに行くことはしていない。

産学連携の実績をプレスリリースしており、それを通して問い合わせがあり対応している。もちろん問い合わせに対するリアクションもできるだけ早く行い、企業に当校のスタンスをアピールすることが重要。

教員の苦労も多いが、こうした実績の積み重ねにより、学内の産学連携に対する意識も年々高まってきている。

萩原：企業側から見るとこうした企業との実体験を経て入社する人材は歓迎したい。

小林：さまざまな教育活動を学生に対して発信することによってよい結果が生まれてきていると思う。

モノを作るという立場から言うと、新しく入社する社員は学卒、途中入社に関わらずモノ作りに対するいわゆる「1 のモノを 2 にする」というアレンジ力は非常に高くスピード感もある。

しかしながら 0 から 1 を作り出すことは難しく、企業としてはそれができる人材育成をお願いしたい。

豊田：今回の資料ではなかなか見えにくいですがコンテストに向けた作品では 0 から創造する

デザイン教育を実践しており、またその部分が一番力を入れている部分であって今後も学校の強みとしてブラッシュアップしていきたい。

杵山：デザインを考える上でトレンドに流されてなかなか決めきれない学生も多くいる。自分の本質を見極めたうえでコンテストやブランド作りに臨む能力を養う教育を常に意識して進めていきたい。

豊田：その意味では彼らが卒業作品発表会で発表する作品が0から創造したものと言える。ただしコンテストはそれぞれの審査の傾向があるのでそれに対する対策を講じることがある。

小林：素材を一から作ることができるデザイナーが年々減少しており、企業としてその点も学校において検討していただきたい。

豊田：尾州などの産地コラボを通じて素材を提案、開発する実習も実施しており今後も期待に沿えるよう努力したい。

片岡：「ファッション甲子園」でグランプリを獲得できたことに対してお礼を申し上げたい。

グランプリを獲得したことによって企業コラボや地域連携のオファーも増えており、「大正モノづくりフェスタ」に参加、また万博への出展も予定している。

榎本：娘は入学以来目標をもって学園生活を送ることができた。

その間、紆余曲折はあったが卒業を迎えることができたことに感謝したい。

岩光：数多くの企業コラボを実施されているがその分先生方の負担も大きいと思う。

そんな環境の中でなぜ先生方が熱意をもって学生を指導できているのか聞かせてほしい。

眞砂：学生が可愛いから。何とかしてやりたいという気持ち。

植田：コンテストや企業コラボなど学生の活動範囲は広がってきており、海外渡航なども増えてくると当然費用も掛かってくる。

その際の費用は誰がどのように負担しているのかお聞きしたい。

豊田：渡航費用は主催者側が負担してくれる場合もあるが基本は学生の負担としている。

原則として学生がコンテストにエントリーする際にあらかじめ渡航費用などは自己負担ということを伝えて承諾を得ることにしている。

学校からの支援としては一例をあげると作品を海外へ送る場合に学校が送料を一部負担している。

またグランプリなど優秀な結果を残した場合は報奨する制度を作って対応している。

植田：今後コンテストに参加する学生を増やすためにも学校として経済的負担を軽減する方策のリサーチも必要ではないかと考えます。

豊田：確かにコンテストには経済的に余裕のある学生が多く参加しているのが事実。

今後、学費などの収益を上げることによってより多くの学生に還元していくような戦略を取れるようにすることがベストであると考えます。

河野：卒業後、就職してからの奨学金の返済が大きな負担になっている。

スタイリストになりたいがアシスタントの給料は安いので東京での生活は負担が大きい。

当社でもアシスタントの給料は上げたがまだ水準には届いていないのが実態。

これはファッション業界全体の課題であり改善が必要だと思う。

豊田：業界全体の給与水準が上がるような卒業生を輩出することによって、より業界が活性化する。学校としてそうした努力をしていきたい。

一方では給与水準の高い海外に目を向けて、そのためのスキルを身につける教育も我々の大きな課題であると考えます。今後もあらゆる可能性を模索していきたい。

岩崎：今回いただいた意見を参考に今後も教育内容の改善に取り組んでいく。

*事務局より閉会を宣言し終了した。